

Q&A (R7試験に向けた内容)

・過去に頂いた質問の中から代表的なものを「Q&A」として取りまとめました。

1. 1級建築士のQ&A

Q1 学科YouTube講座のPDFは会員講座のみですか？解説ありですか？

A1 PDFは、会員講座のみです(解説あり)。

補足 ホームページ(HP)において、2021年11月から学科YouTube講座は、緑色帯の1タグ(会員講座)として独立させました。会員講座の中のYouTubeでは、公開しているYouTubeを一覧表としてアップしているとともに、PDFも公開しています(2021年11月からノート方式の解説文付)。なお、2021年10月から登録者数が千人を超えて広告が付きしました。たぶん、1クリック時の広告料が0.1円〜0.2円付きます。視聴時にご不便をお掛けして申し訳ありませんが、広告料は、すべてHP維持費のみに使用しますので、ご理解頂けますようお願い申し上げます。

熱の用語と単位の関係

熱伝導率(k)は熱の伝わりやすさ

熱伝導率の逆数は熱伝導比抵抗であり、熱貫流抵抗ではない

熱伝導率 (W/mk)

熱貫流率 (W/m^2K)

熱貫流抵抗 (m^2K/W)

逆数

熱貫流抵抗(熱伝導比抵抗)

学科YouTube講座

Q2 学科YouTube講座は、どの学科をどのような順番でアップしますか？

A2 R6組込の学科YouTubeは、2025年1月から順番アップします。

補足 R6組込の学科YouTube講座は、2025年1月から①～⑤の順番で適宜アップします。
 ① R6組込の計画 I のYouTube講座 (2025年1月アップ予定)
 ② R65組込の設備 II のYouTube講座 (2025年2月アップ予定)
 ③ R6組込の法規ⅢのYouTube講座 (2025年3月アップ予定)
 ④ R6組込の構造ⅣのYouTube講座 (2025年4月アップ予定)
 ⑤ R6組込の施工ⅤのYouTube講座 (2025年5月アップ予定) ※可能な限り早くアップします。

最も出題の多いのは、用語と単位の関係です。ここでは、熱の用語について解説します。建物なら、例えば外壁があり、その外から熱が入ると、その外壁、代表的には窓枠などが、インサレーションで熱伝導率による空間と室内へ伝熱されます。用語である熱伝導率は、熱の伝わりやすさのことです。また、熱伝導率の逆数は熱伝導比抵抗であり、熱貫流率の逆数は熱貫流抵抗であり、熱貫流率の逆数は熱貫流抵抗となります。その単位は、表の通りですが、赤字のmとmを注目すると簡単に暗記できます。

ホームページは解説付PDFあり

Q3 学科YouTube講座の組込で講座は、どのように変わったのですか？

A3 HPの学科講座は、大きく以下3種類に変更、法規Ⅲのみ更に2種類あります。

補足 2021年4月からYouTube講座を取り入れて、スマホ・パソコン学習を強化しました。2021年11月から、講座の構成を大きく変更しました。この3種類を学習すればR7学科に合格できると想定しています。
 ① 学科YouTube講座・・・2025年1月からは、ほぼ毎日アップ予定
 ② ポイント箇条書きのパワーポイント音声読み上げ・・・電車内での学習に最適
 ③ 各学科別、項目別の過去問20年一覧表・・・過去問20年を学習すると100点を越える更に、法規Ⅲのみ、④法文一覧表、⑤法令集マーカーの講座があります。

学科合格は1項目1点ずつの正解による

① 学科YouTube解説(各学科別、各項目別)

② ポイント箇条書きパワーポイント音声読み上げ

③ 各学科別、項目別の過去問20年一覧表

Q4 HPの会員講座の構成は、どのようになってますか？

A4 会員講座の構成は、下記の通りです。

補足 HPの構成は、「HOME無料講座」から会員IDで「会員講座」に入ると下記①～⑤の全てが見れます。
 ① 緑色帯「学科講座」・・・1級建築士学科講座
 ② 緑色帯「製図講座」・・・1級建築士製図講座
 ③ 緑色帯「学科YouTube講座」・・・1級学科のYouTube講座
 ④ 緑色帯「製図YouTube講座」・・・1級製図のYouTube講座
 ⑤ 緑色帯「音声ポイント講座」・・・1級学科の音声ポイント講座

【2022年1月から講座の構成が矢印へ変更】

(1) 1級建築士学科講座 ⇒ 同左

(2) 1級建築士製図講座 ⇒ 同左

(3) 1級YouTube講座 ⇒ 学科YouTube講座

(4) 2級建築士講座 ⇒ 製図YouTube講座

(5) 設備1級・構造1級講座 ⇒ ポイント箇条書きの音声読み上げ

Q5 R6製図課題「大学」の予測3課題は、約8割以上の中したのですか？

A5 R6の本試験に対して予測3課題は、約8割以上が的中しました。

補足 R6大学の設計課題では、右表1に示すように、階数自由、床面積指定なし、講堂は段床形式、免震構造、道路斜線の全てにおいて的中した。更に、今年は7×7スパンの単純書き潰しとして50㎡以上指定が出たが、それは予測課題2での50㎡以上と同じであった。計画の要点等は、右表2に示すように、計画の要点等で予測できなかったのは、(1)の一部、(6)ですが、(1)は動線計画等を応用で、(6)屋上設備はR5と同じ問題なので研究会のR5解答を見ていればそのまま書けます。全体としては、右に示すように8割以上が的中したと言える。

本試験課題と予測課題との比較検証

【比較結果】

【表1】課題(1)の比較検証

課題	要件	比較結果
1	①	○
	②	○
	③	○
	④	○
	⑤	○
	⑥	○
	⑦	○
	⑧	○
	⑨	○
	⑩	○
	⑪	○
	⑫	○

【表2】課題(2)の比較検証

課題	要件	比較結果
2	①	○
	②	○
	③	○
	④	○
	⑤	○
	⑥	○
	⑦	○
	⑧	○
	⑨	○
	⑩	○
	⑪	○
	⑫	○

Q6 R6製図試験対策として今から何を学習すれば良いですか？

A6 R6の製図課題ができるまでは、過去問を学習すれば良いです。

補足 来年、R6の製図試験対策としての学習は、R6の課題ができる7月までは、過去問(課題と標準解答図)を主とした学習で良いです。研究会では、新試験制度となった、平成21年からの過去問全てを8項目に分類して比較検討しています。それを主体に、過去の標準解答図と研究会でまとめている計画の要点等を学習するだけで良いです。これらを主としながら、その他、過去の課題を参考に、自主的にフリーハンドを取り入れた高速作図やエスキスも加えて、来年7月の課題発表を待てば、それ以外は特に不要です。

製図課題(H21～R6)の項目別分析(製図試験も過去問分析が王道)

【項目(1)】 I. 設計条件(前文) ←解説内容

【項目(2)】 1. 敷地及び周辺条件

【項目(3)】 2. 建築物(1)本文

【項目(4)】 2. 建築物(2)要求室一覧表



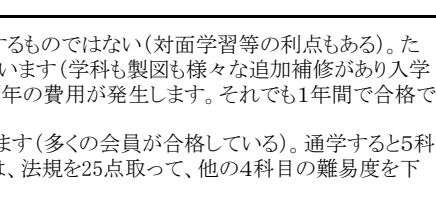
【項目(5)】 3. その他の施設

【項目(6)】 4. 計画に当たっての留意事項

【項目(7)】 1. 要求図書(2.面積表)

【項目(8)】 3. 計画の要点等

2. 1級建築士のQ&A

Q1	1級学科: 一般書籍と何が違うのですか？	
A1	1級学科: 過去問20年が簡単に効率よく学習できる資料です。	
補足	HPの最大の特徴は、過去問20年分が一覧表にまとまっており、その20年間の過去問を効率よく学習することができます。一般書籍は、「過去問7年問題集」や「分野別問題」など1問ずつが詳細に解説されています。これを否定するのではなく、HPは、如何に時間をかけないで効率よく過去問を学習できるかを追求した資料です。毎年1問出題される項目の場合、過去問(20年分)がA3伴2枚の一覧表(類似問題色分)で全てが見れるので、机にこの2枚を置くと、20年分の問題傾向を簡単に把握できます(右表参照)。多くの会員の方が、この一覧表等を活用して3ヵ月程度の短期間の学習で合格をしています。	
Q2	1級学科: 法規は最新法令集に適合していますか？	
A2	1級学科: 過去問20年は2025年版法令集の法文に適合するよう修正します。	
補足	法文(法令集)は、毎年若干の変更がある。従来、実行委員(5名)では、この毎年の変更に対して、十分な対応ができなかった。その都度、会員から指摘を頂き、その部分を変更修正する状況であった。2020年からは、外注依頼することで「過去問20年の項目別一覧表(右参照)」の現法への全面見直しをしています。なお、外注依頼が企業ではなく個人であることから、全てが完璧とは言えない部分もあるので、お気づきの点は従来通りメール連絡頂くと、その都度、修正を加える。	
Q3	1級学科: 構造力学が不得意ですが、どのように学習すれば良いのですか？	
A3	1級学科: 過去問以外の「7章重要解説」や「9章用語解説」等も学習して下さい。	
補足	構造力学は、構造設計者でない場合、過去問の学習だけでは簡単に解答ができない。特にHPは、解説内容が少ないので、項目別一覧表だけの学習は難しい。そこで、HP内には、「7章 項目別の重要解説」や「9章 用語解説」等の資料があるので活用頂きたい。一例として右表は、「9章 用語解説」の中の「4-2-3 たわみとたわみ角の公式の簡単暗記法」である。ゴロ合わせて簡単に公式が暗記できるものであり、ここを暗記すると、このたわみとたわみ角の問題は、高確率で簡単に解答できる。なお、研究会は、構造力学の約7問に対して、静定構造(リッター切断法)、たわみ、崩壊荷重、座屈、振動等の約半分の解答を推奨している(7問全問解答は膨大な時間を要する)。	
Q4	1級学科: 短期間で本当に合格できますか？	
A4	1級学科: 多くの方が3ヵ月の短期学習で、試験1週間前の入会でも+10点アップにより合格しています。	
補足	3ヵ月合格法: 学科試験は、過去問20年を学習すると、この学習だけで100点超えをすることが可能です(過去問10年では傾向等把握しきれないので20年分必要)。HPは、如何に効率よく過去問20年を学習できる資料(を項目別一覧表等)としています。また、法規が合否を左右するとして、3ヵ月で法規なら25点取得できる資料も提供しています。その結果、多くの会員の方が、HPだけによる3ヵ月の短期間で合格しています。なお、研究会は、過去問20年の学習を1年程度かけて確実に100点超えで合格できます。 1週間合格法: 試験直前の模擬試験結果が80点代であり、ここからの追込み学習にHP活用は有効か等の質問も多い。試験直前の追込み学習には、「ポイント一覧表」が有効である。このポイント一覧表は、HP開始時H7~最新年度の選択肢問題を正解文に変えて項目別の一覧表としています(計算問題等一部割愛あり)。人間は、正解文と間違文と一緒に学習すると、混乱して記憶し難い。試験直前に模擬試験80点代の方が入会し、試験前1週間会社を休み、このポイント一覧表だけを学習して、模擬試験から10点以上アップし合格した方がいます。	
Q5	1級製図: 毎年なぜ予測3課題のみで約8割以上も的中するのですか？	<p style="text-align: center;">R6予測課題の比較一覧表</p>
A5	1級製図: H21からの過去問分析とS社N社の分析で4年連続で8割的中しています。	
補足	HPの予測課題は3案であるが、H21からの過去問分析およびS社N社の資料を分析する等で、4年連続8割以上の中しています。3案絞込みの理由は、S社N社(予測課題10~15案)全ての課題学習には膨大な時間を要し「結局何が出来る？」となること、3案集中型の方が十分な理解が深まり本試験で応用が可能となるからです。また、8割以上の中していることは、多くの資料を分析して予測課題を作成することによる(S社N社全ての予測課題も分析、右表参照)。毎年、S社とN社の予測課題も含めて、項目としての分析一覧表をHPで公開しています(右表はR6分析一覧表、両社分析は当HPのみ)。	
Q6	1級学科・製図: 資格学校へ通学しなくても合格できますか？	
A6	1級学科・製図: HPのみ利用で学科(多数)、製図(少数)を合格してます。	
補足	製図は、1級建築士の合格者の9割弱がS社・N社の受講者が占めることから、資格学校への通学を否定するものではない(対面学習等の利点もある)。ただし、あまりに高額な受講費であり、特にS社は近年入学後に追加補修費を追金する経営方針へ転換しています(学科も製図も様々な追加補修があり入学金+補修費10~20万円必要、断り難い一面あり、N社は特に追加補修費はない)。その結果、約100万円/年の費用が発生します。それでも1年間で合格できれば良いが、実際は、2年3年となりローンを組んで受講する方も多い。 学科は、HPの過去問20年の各種一覧表の学習で確実に合格できるので通学しなくてもよいと判断しています(多くの会員が合格している)。通学すると5科目について満遍なく講習を受けることとなるが、その学習法も多少効率が良いとは言え切れない。研究会は、法規を25点取って、他の4科目の難易度を下げた合格することを推奨しています。	